



## 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



## (1) 人口・世帯等の動向

(2) 住まいの状況

(3) 住まいの意識

(4) 宮城県高齢者居住安定確保計画



## (1) 人口・世帯等の動向

- ① 高齢者人口の推移
- ② 高齢者世帯数の推移
- ③ 要支援・要介護者数の推移
- ④ 不慮の事故による死者数
- ⑤ 家庭内の事故死の割合
- ⑥ 冬のお風呂の死亡事故
- ⑦ 冬の室温
- ⑧ 断熱改修等と健康

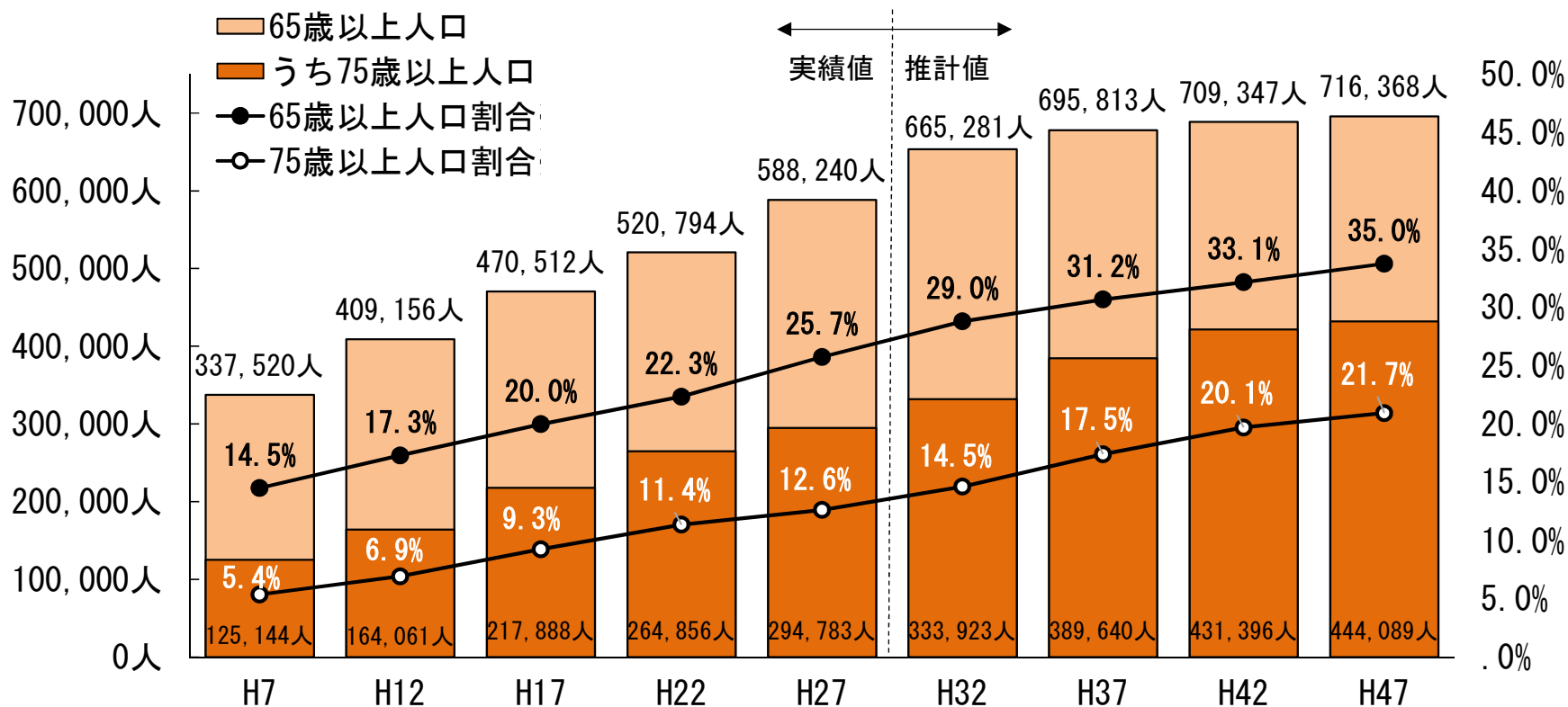
# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



## (1) 人口・世帯等の動向

### ① 高齢者人口の推移 (宮城県)

高齢者人口は増加を続け、  
H47には1/3が高齢者



資料：平成27年以前：国勢調査，平成32年以降：国立社会保障・人口問題研究所（平成30年3月推計）

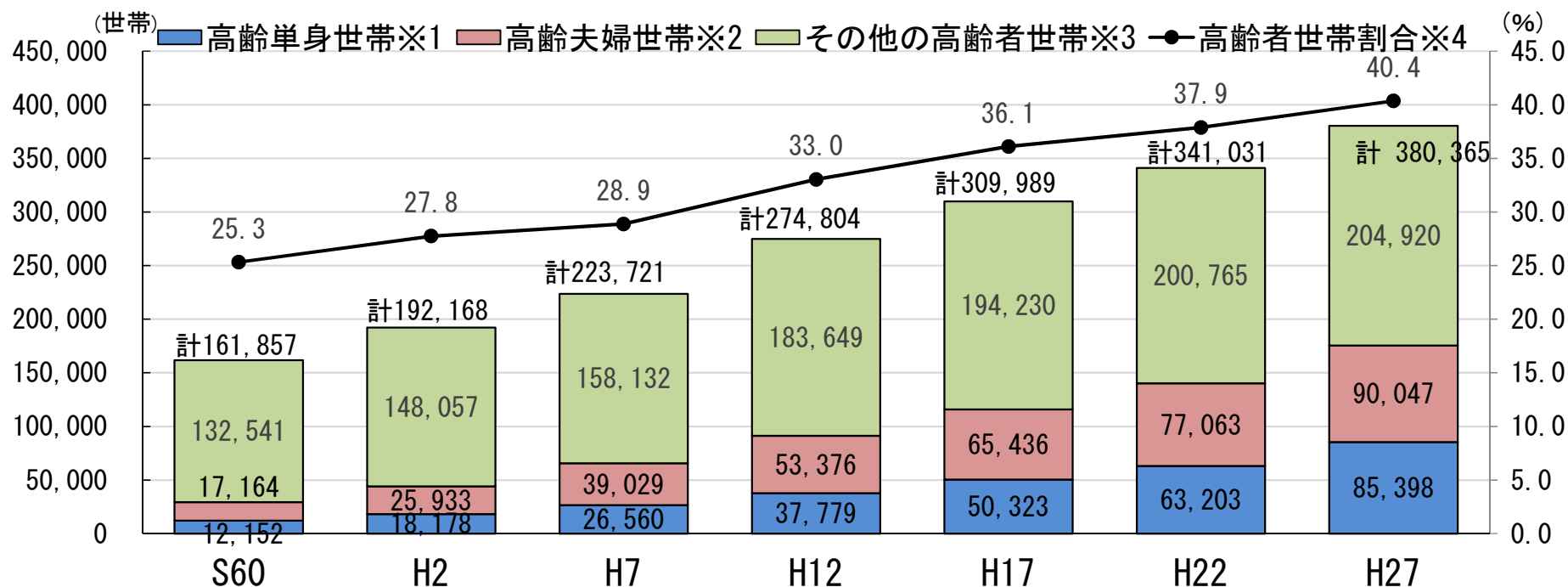
# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



## (1) 人口・世帯等の動向

### ② 高齢者世帯数の推移 (宮城県)

高齢者世帯数は増加を続け、特に高齢単身・夫婦世帯が増加



※1 65歳以上の単身世帯      ※2 夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみの世帯  
 ※3 65歳以上世帯員がいる世帯のうち高齢単身世帯と高齢夫婦世帯以外の世帯  
 ※4 一般世帯総数に占める高齢者世帯総数の割合

資料：国勢調査

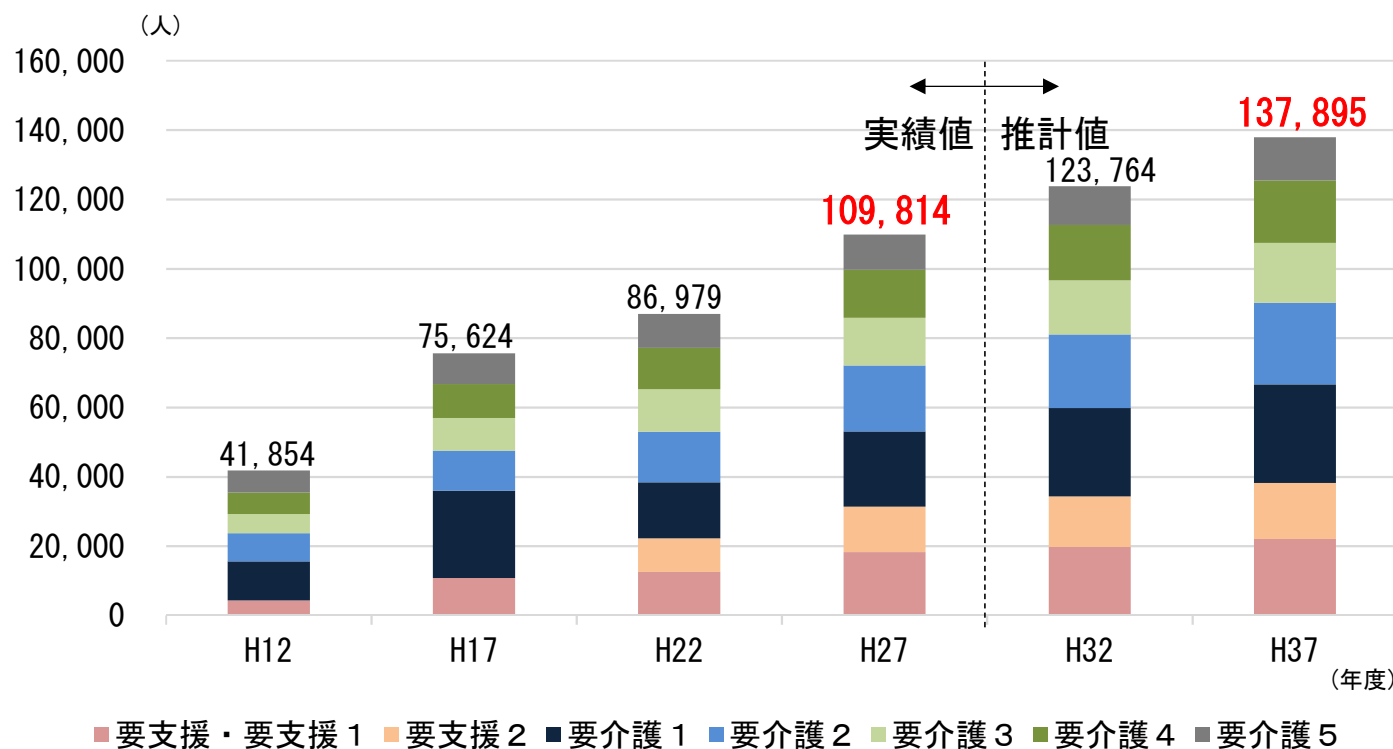
# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



## (1) 人口・世帯等の動向

### ③ 要支援・要介護者数の推移 (宮城県)

要支援・要介護者は増加し、  
今後10年間で3万人が増加



資料：平成27年以前：介護保険事業状況報告  
平成29年以降：「第7期みやぎ高齢者元気プラン」による推計

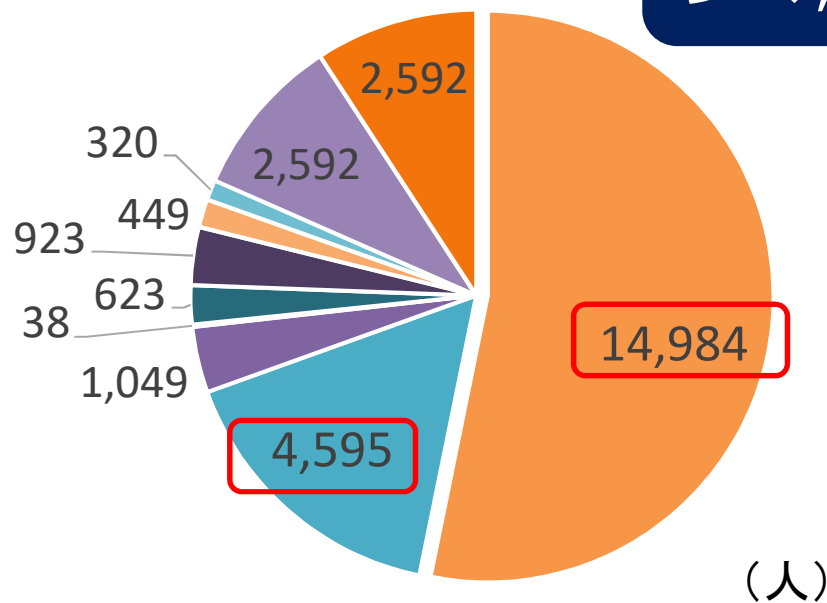
# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



## (1) 人口・世帯等の動向

### ④不慮の事故による死者数

家庭内事故は交通事故より多く、約3.3倍も



- 家庭内
- 交通事故
- 居住施設
- 学校、公共施設など
- スポーツ施設など
- 街路など
- サービス施設など
- 建設現場など
- 農場など
- その他

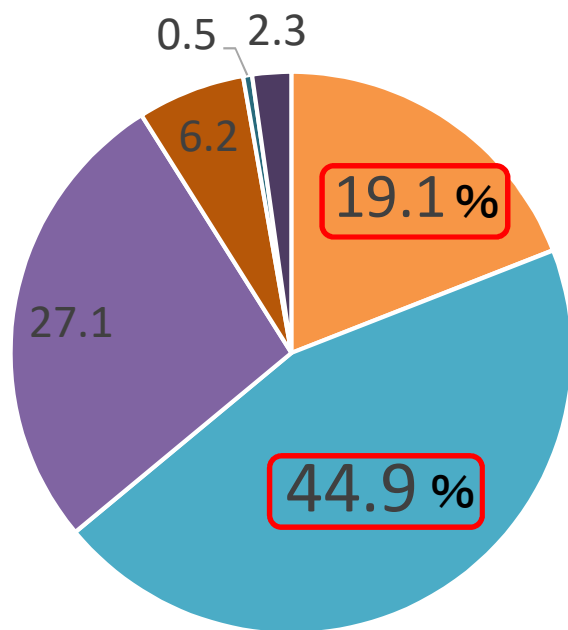
資料:平成30年人口動態調査

# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



## (1) 人口・世帯等の動向

### ⑤ 家庭内の事故死の割合



■ 転倒・転落

■ 溺死及び溺水

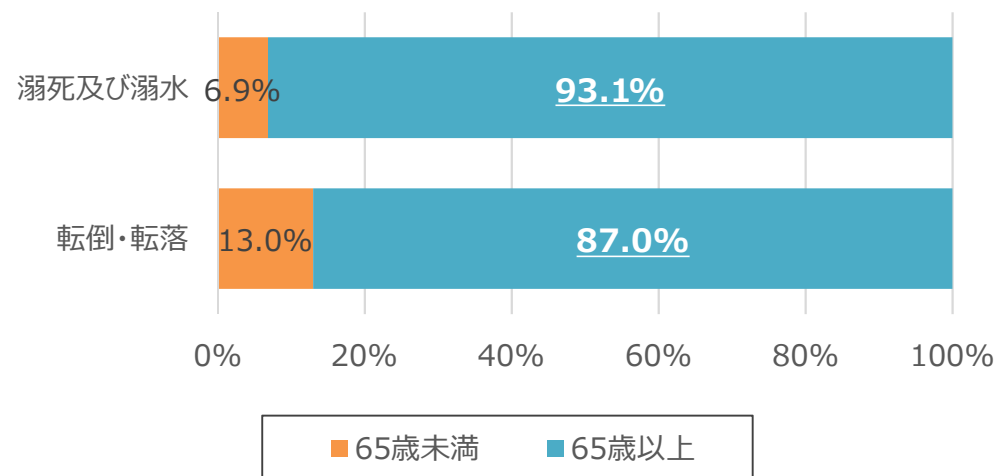
■ 窒息

■ 煙、火及び火炎

■ 熱及び高温物質との接触

■ 有害物質による中毒など

溺死等のお風呂の事故が最多、次いで窒息や転倒・転落。溺死、転倒・転落の約9割が高齢者



資料:平成30年人口動態調査



# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



## (1) 人口・世帯等の動向

### ⑥冬のお風呂の死亡事故

#### 高温・長時間入浴による死亡事故



高体温や出浴時の脳血流減少などによる意識障害で、浴槽から出られなくなったり、浴槽内にしゃがみこんだりします。体温の上昇はお湯が熱いほど早くなります。



水没あるいは顔を水中に漬けて溺水します。



ショックによる心停止あるいは溺死にいたります。

入浴中の事故はヒートショック（急激な温度変化が身体に与えるショック）等が原因と考えられています。

#### お風呂から急に立ち上がるとなぜ頭がくらくなるのか？

入浴中にはお湯で体に水圧がかかっています。その状態から急に立つと体にかかっていた水圧はなくなり圧迫されていた血管は一気に拡張します。すると脳に行く血液が減り（脳血流減少）脳は貧血となり一過性の意識障害を起こします。



資料：厚生科学指定型研究 入浴関連事故研究班

# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



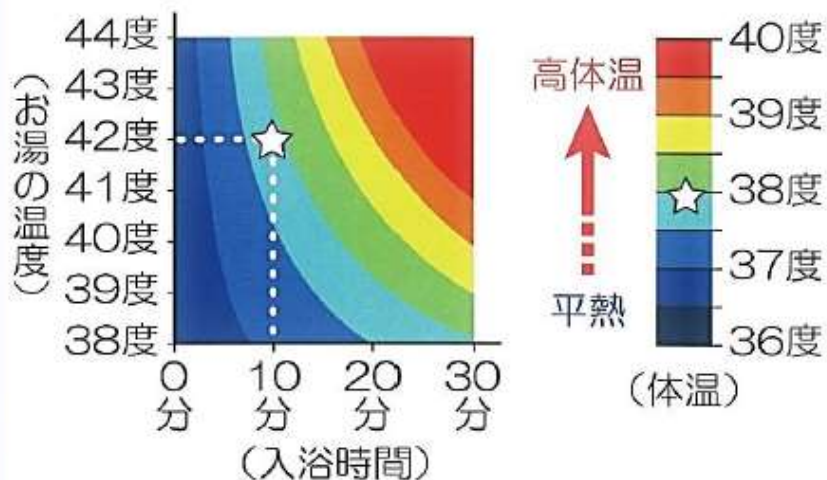
## (1) 人口・世帯等の動向

### ⑥ 冬のお風呂の死亡事故

入浴中の事故はヒートショック（急激な温度変化が身体に与えるショック）等が原因と考えられています。

#### 入浴時間と湯温と体温の関係

お湯が熱いほど体温は早く上昇します。

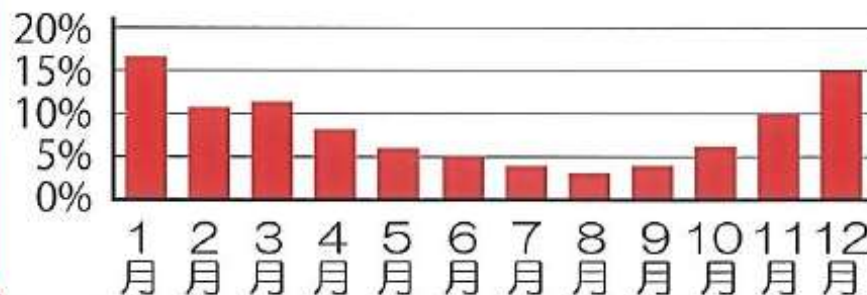


体温の変化をお湯の温度と入浴時間でシュミレーションすると、10分入浴した場合体温が38度近く(☆)に達します。

お一人での高温浴は危険です。41度以下で10分以内に上がる様に気を付けましょう。

#### 浴槽内での死亡事故の発生時期

11月～3月、冬の寒い時期に特にお年寄りの死亡事故が多いことが知られています。



資料: 厚生科学指定型研究 入浴関連事故研究班

# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



## (1) 人口・世帯等の動向

### ⑥冬のお風呂の死亡事故

#### 入浴事故を防ぐ安全対策



- お湯は41度以下で10分まで、長湯はしない様に気を付けましょう。
- 浴室、脱衣所も暖めておきましょう。
- 転倒防止にてすりを設置しましょう。
- 声をかけてからお風呂に入りましょう。

室内の温度差を整えたり、手すりを設置することが事故防止につながります。

#### • ゆっくり出浴

浴槽で急に立ち上がると立ちくらみ・失神をおこし、浴槽内に倒れて溺れる危険があります。浴槽につかまり頭を低くして前かがみになる、浴槽のへりに腰かけるなどしてゆっくりと立ち上がりましょう。



#### • 銭湯など公衆浴場を利用

死亡事故のほとんどが自宅浴槽での発見の遅れが原因です。人目が多く発見が早い事で事故を防ぐ事が出来ます。

#### • こういう時は入浴を控えましょう。

- 体調が悪い時・お酒を飲んだ後
- 睡眠薬などを飲んだ後

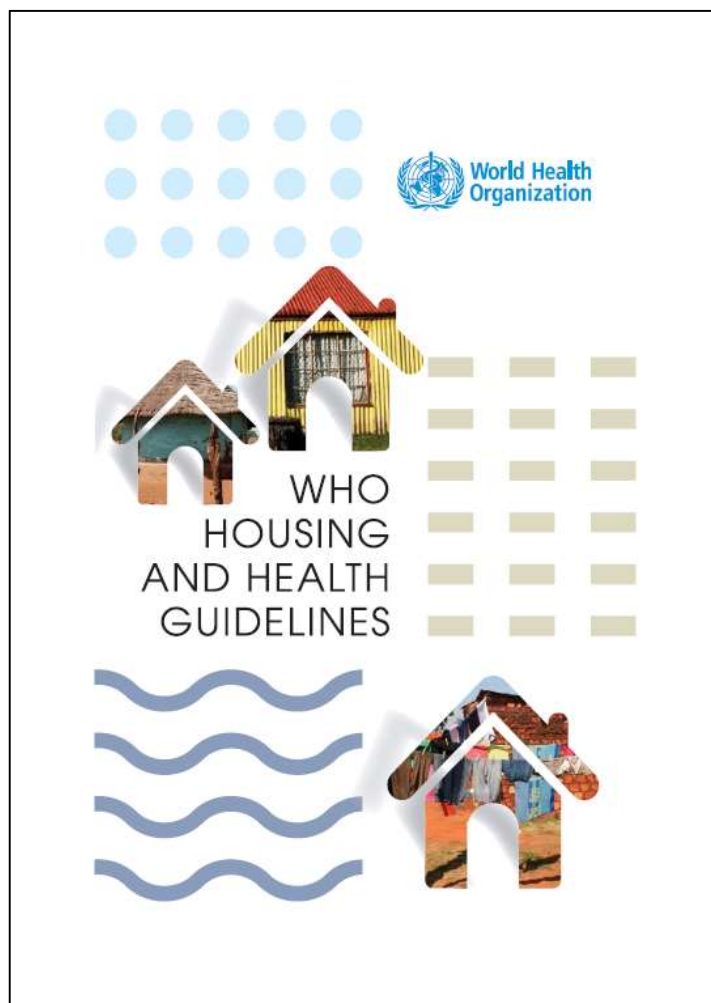
資料：厚生科学指定型研究 入浴関連事故研究班

# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



## (1) 人口・世帯等の動向

### ⑦冬の室温



冬季の室温を18度以上にすることがひとつの目安です。

**WHO（世界保健機関）が住宅と健康について新しいガイドラインを発表（H30.11）**

**健康への悪影響**から居住者を守るため「**冬季の室内温度は18度以上**（子どもと高齢者はさらに暖かく）」と強く勧告

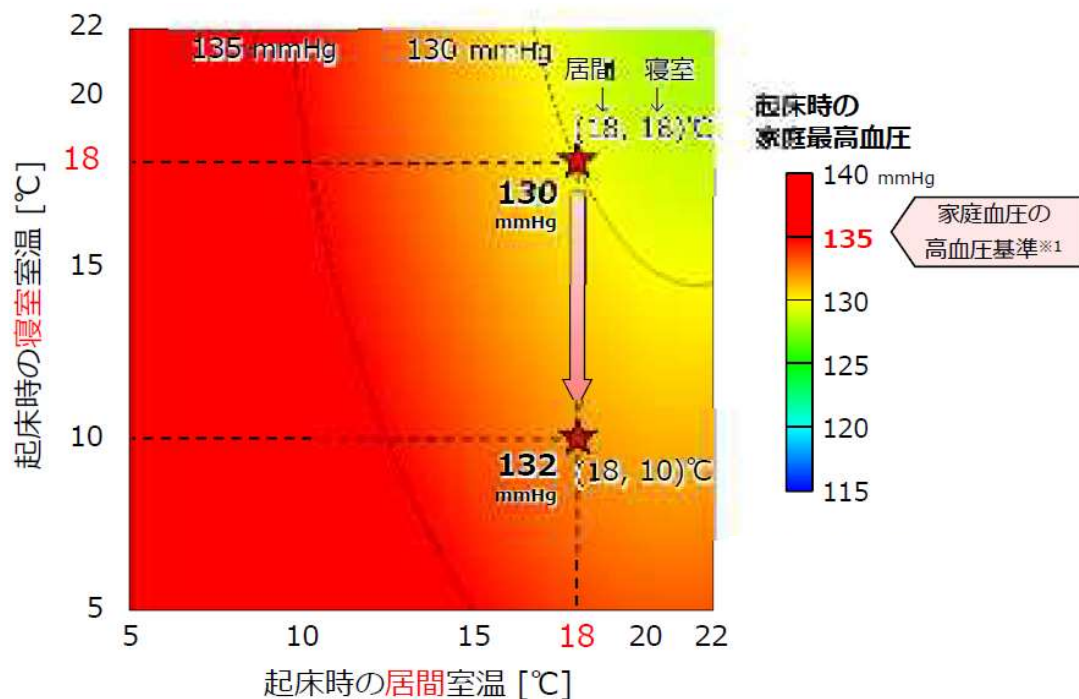
資料:WHO

# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



## (1) 人口・世帯等の動向

### ⑧断熱改修等と健康



高血圧予防の観点から、局所暖房（居間のみを暖める暖房）は好ましくなく、住宅全体を適切に暖房する必要性が示唆された。

例えば、居間と寝室の室温を両方とも18℃に保つ場合に比べて、居間が18℃、寝室が10℃の場合では（部屋間温度差が大きくなると）、起床時の最高血圧がさらに2mmHg高い。

### 得られつつある知見

居住者の血圧は、部屋間の温度差が大きく、床近傍の室温が低い住宅で有意に高い。

起床時と就寝前の最高／最低血圧に対する室温の影響を検証した。床上1mの室温が1℃低下した場合よりも、床近傍の室温が1℃低下した場合の方が、血圧への影響が大きかった。

血圧の指標		室温1℃上昇あたりの血圧への影響※3	
		床上1m室温	床近傍室温
起床時	最高血圧	-0.68 mmHg/℃	<b>-0.81 mmHg/℃</b>
	最低血圧	-0.38 mmHg/℃	<b>-0.48 mmHg/℃</b>
就寝前	最高血圧	-0.50 mmHg/℃	<b>-0.54 mmHg/℃</b>
	最低血圧	-0.34 mmHg/℃	<b>-0.41 mmHg/℃</b>

資料：国土交通省

# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



## (1) 人口・世帯等の動向

### ⑧断熱改修等と健康

得られつつある知見

就寝前の室温が低い住宅ほど、過活動膀胱症状を有する人が有意に多い。

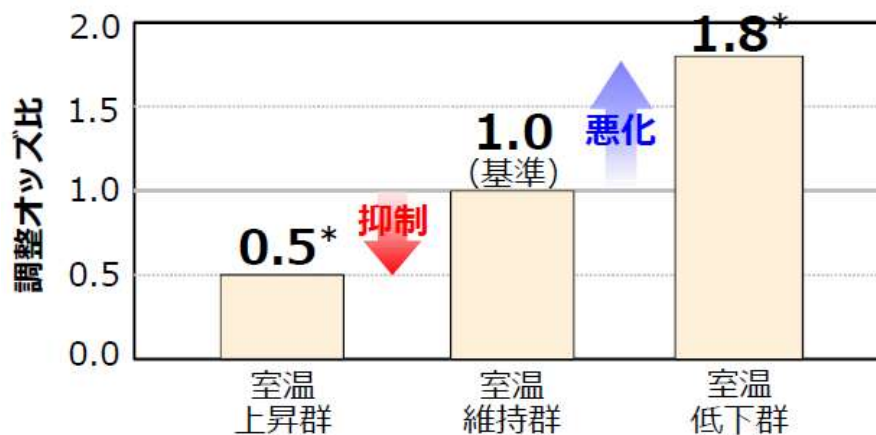
断熱改修前の現状分析の結果、就寝前の室温が12℃未満の低温の住宅では、18℃以上の温暖な住宅と比較して、過活動膀胱症状を有する人の割合が1.6倍だった。

説明変数	分類		調整オッズ比
就寝前室温	12℃未満	Ref. 18℃以上	1.62*
年齢	65歳以上	Ref. 65歳未満	2.54***
塩分摂取	かなり多い	Ref. 少ない	2.67*
高血圧	あり	Ref. なし	1.40*
腎臓の病気	あり	Ref. なし	5.43***
降圧剤の服用	あり	Ref. なし	1.38*

得られつつある知見

断熱改修後に就寝前居間室温が上昇した住宅では、過活動膀胱症状が有意に緩和。

断熱改修後に、過活動膀胱症状は、就寝前室温が上昇した住宅では0.5倍に抑制され、逆に室温が低下した住宅では、1.8倍に上昇。



資料: 国土交通省

# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



(1) 人口・世帯等の動向

(2) 住まいの状況

(3) 住まいの意識

(4) 宮城県高齢者居住安定確保計画



## (2) 住まいの状況

- ① 住宅の所有関係
- ② 住宅の建築時期
- ③ バリアフリー化の状況
- ④ バリアフリー化水準の状況



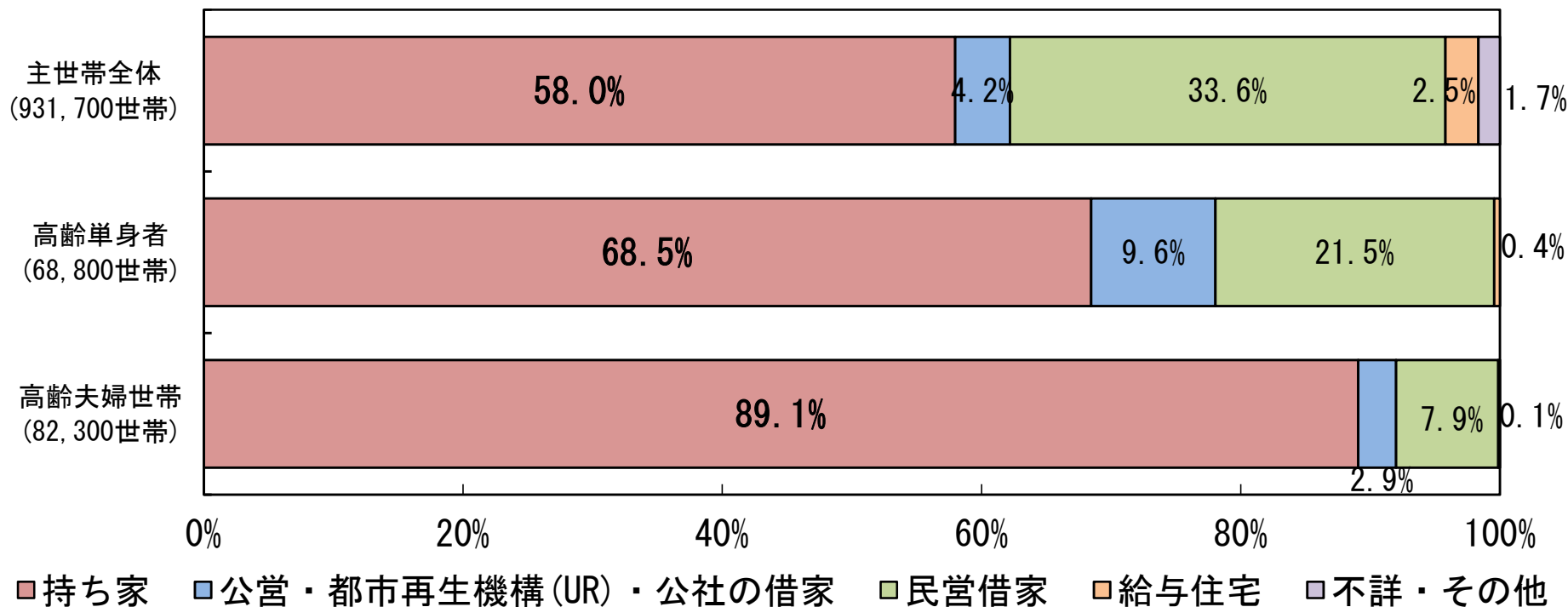
# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



## (2) 住まいの状況

### ①住宅の所有関係（宮城県）

高齢者世帯は持ち家が多く、  
高齢夫婦世帯では約9割



資料：平成25年住宅・土地統計調査

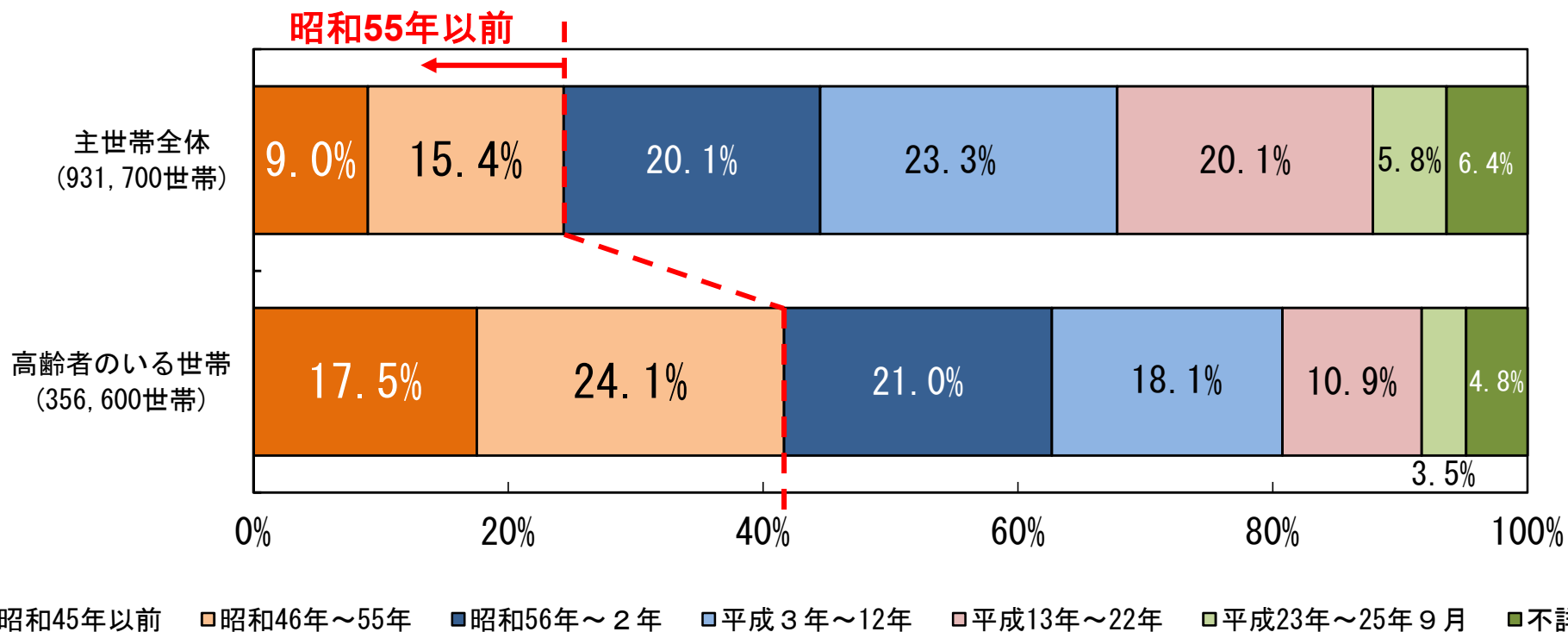
# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



## (2) 住まいの状況

### ②住宅の建築時期（宮城県）

高齢者世帯の住宅は昭和55年以前に建てたものが多い



資料：平成25年住宅・土地統計調査

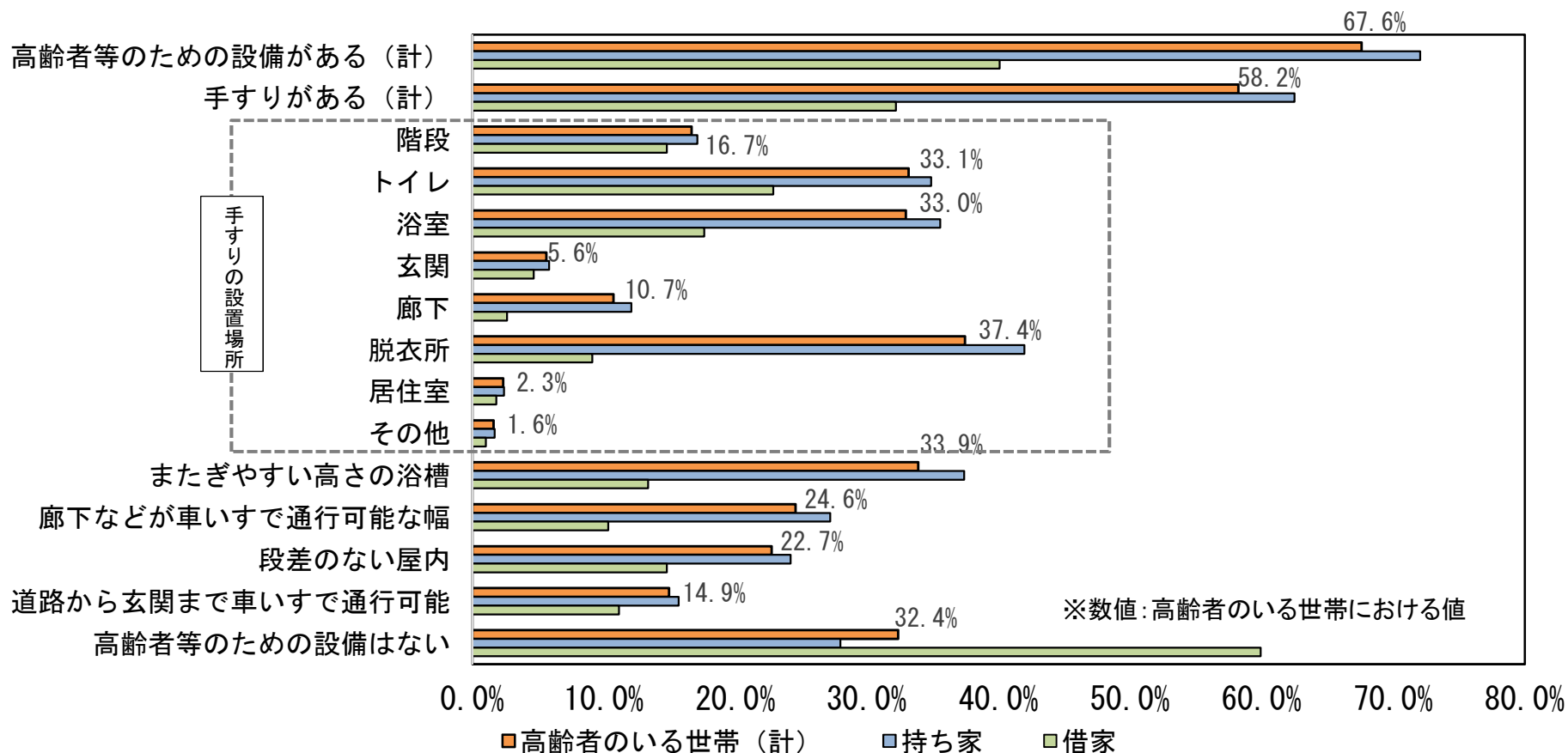
# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



## (2) 住まいの状況

### ③ バリアフリー化の状況

高齢者世帯の住宅はバリアフリー化されていない住宅が多い



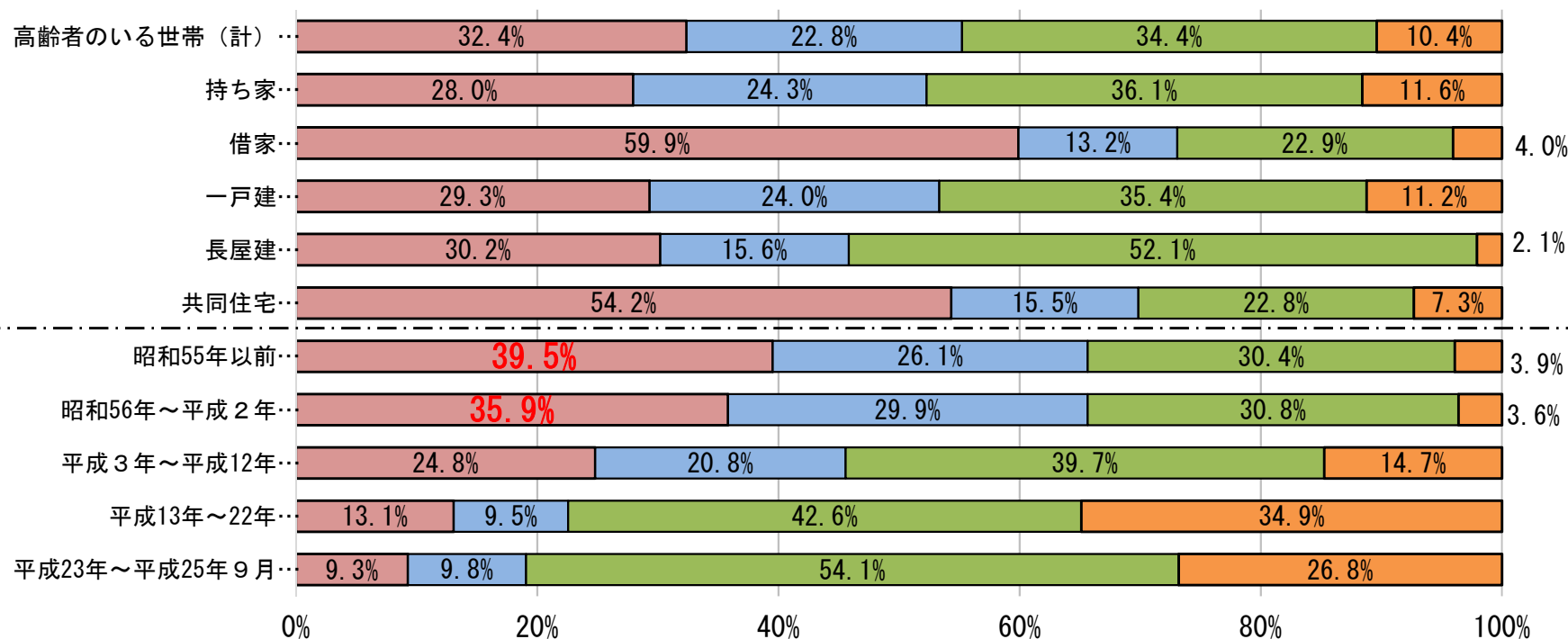
# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



## (2) 住まいの状況

### ④ バリアフリー化水準の状況

バリアフリー化されていない住宅は平成2年以前建築に多い



□ 高齡者等のための設備はない

□ 何らかの設備がある～一定のバリアフリー化以下

■ 一定のバリアフリー化～高度のバリアフリー化

■ 高度のバリアフリー化達成

※ 一定のバリアフリー化: 2箇所以上の手すり設置又は屋内の段差解消

※ 高度のバリアフリー化: 2箇所以上の手すり設置、屋内の段差解消及び車いすで通行可能な廊下幅

# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



(1) 人口・世帯等の動向

(2) 住まいの状況

(3) 住まいの意識

(4) 宮城県高齢者居住安定確保計画



## (3) 住まいの意識

- ① 住宅の満足度（不満度）
- ② 居住環境の満足度（不満度）
- ③ 住み替えの意向

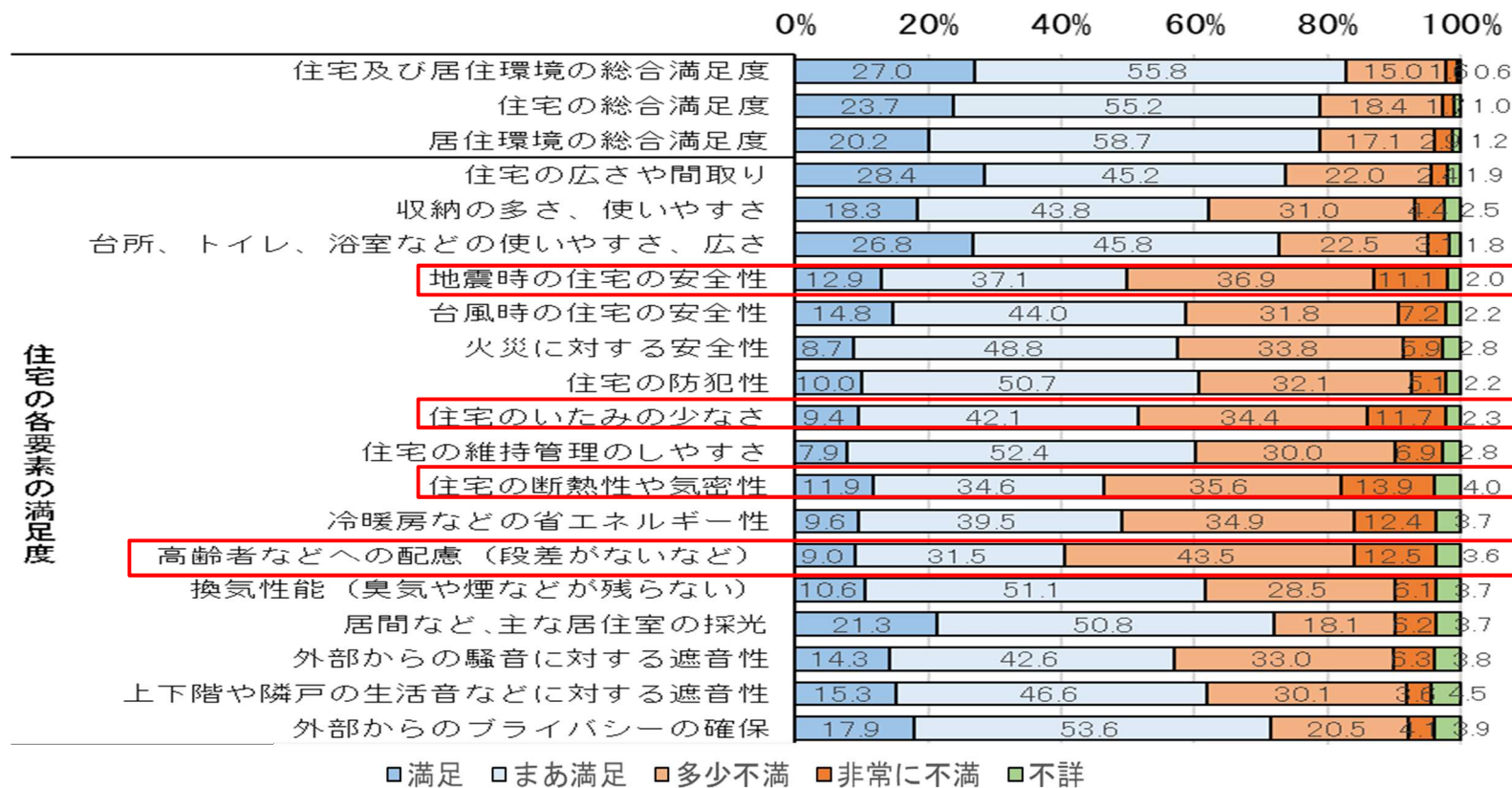
# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



## (3) 住まいの意識

### ① 住宅の満足度 (不満度)

耐震性能, 断熱性能, 段差があること等への不満を感じている



□満足 □まあ満足 □多少不満 □非常に不満 □不詳  
  : 「多少不満」と「非常に不満」の割合の合計が40%を超える要素

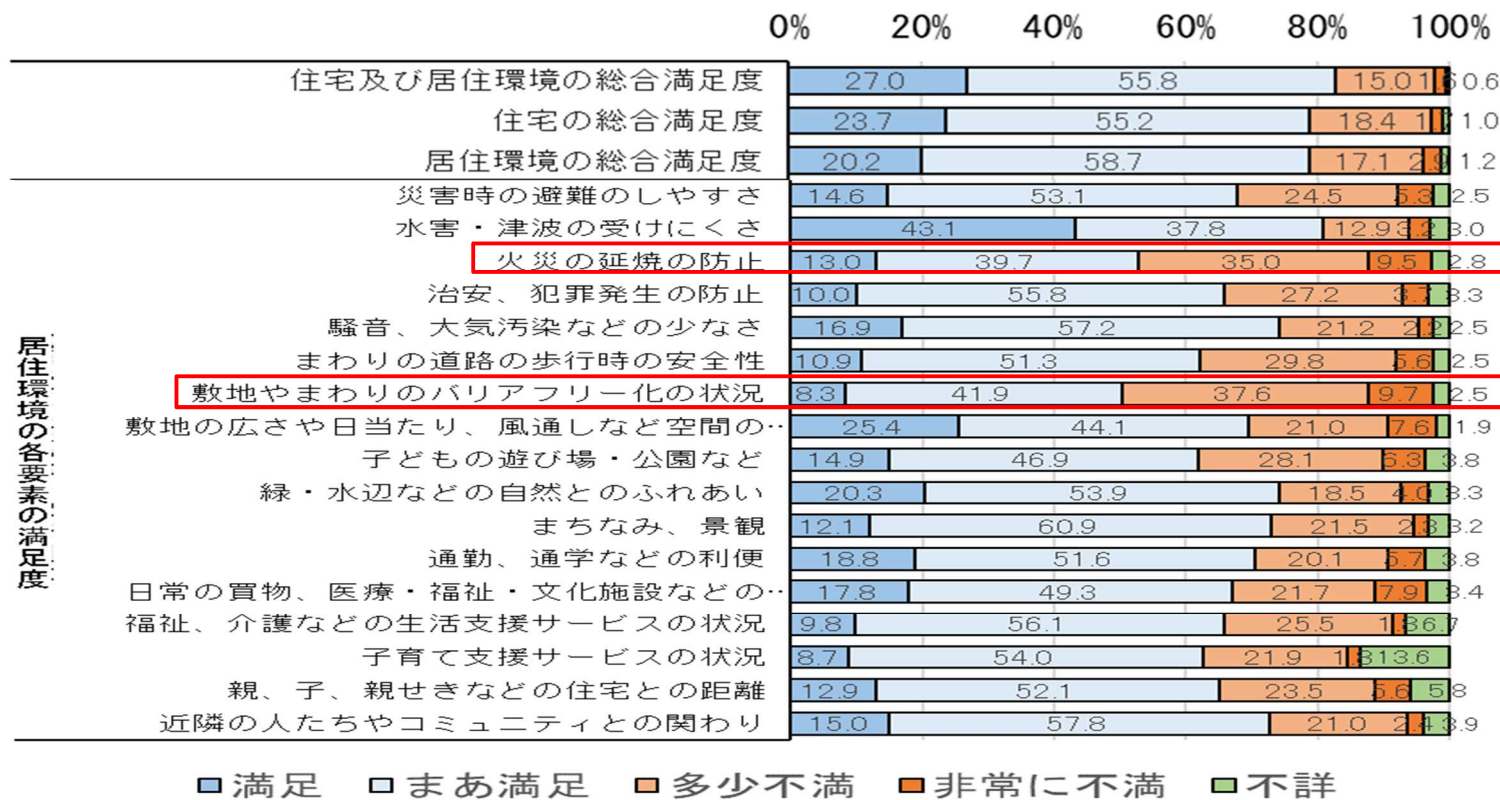
# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



## (3) 住まいの意識

### ② 居住環境の満足度 (不満度)

火災の延焼防止やバリアフリー化に不満を感じている



□ : 「多少不満」と「非常に不満」の割合の合計が40%を超える要素



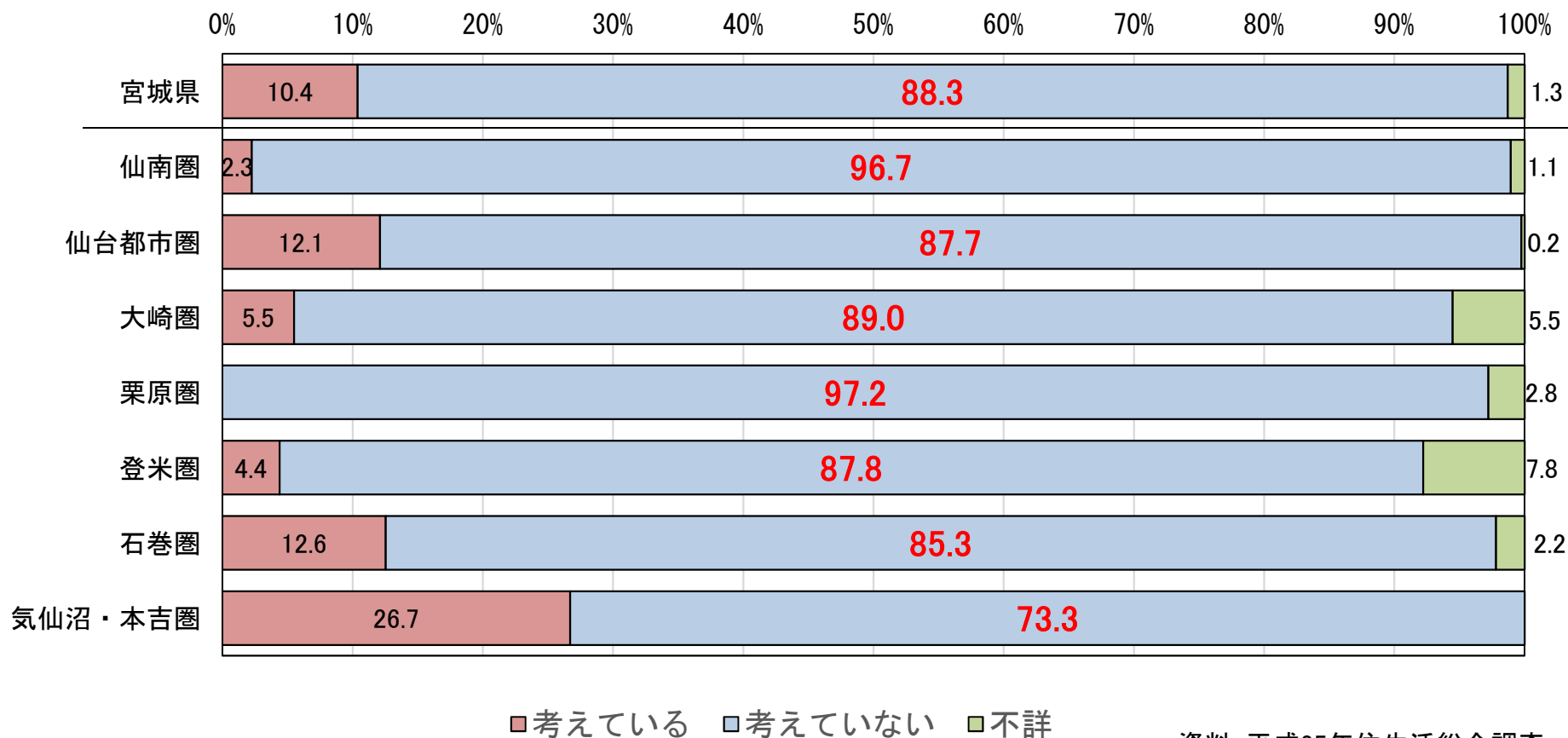
# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



## (3) 住まいの意識

### ③ 住み替えの意向

住み替えを考えていない世帯が約9割



資料: 平成25年住生活総合調査

# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



(1) 人口・世帯等の動向

(2) 住まいの状況

(3) 住まいの意識

(4) 宮城県高齢者居住安定確保計画



## (4) 宮城県高齢者居住安定確保計画

- ① 目標
- ② 基本方針

# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



## (4) 宮城県高齢者居住安定確保計画 (第2期, 平成30年4月策定)

### ① 目標

いつまでも自分らしく豊かな住生活を送れるよう、世代を問わず県民一人ひとりが、加齢により身体機能が低下していくことなどを見据え、高齢期を迎える前の早い段階から将来の住まいのあり方を意識し、自らが望む暮らしの確保に取り組んでいくことが大切

### 目標

住み慣れた住まいでいつまでも・状況に応じて住まいを選択しながら 地域で支え合いながら、自分（わたし）らしい暮らしの実現

### 高齢者向け住まい・施設の供給目標

高齢者人口に対する高齢者向け住宅・施設<sup>※</sup>の割合：  
平成29年度 1.8% ⇒ 令和5年度 3.5%

# 1 高齢者の住まいの現状と住宅施策



## (4) 宮城県高齢者居住安定確保計画 (第2期, 平成30年4月策定)

### ② 基本方針

#### 基本方針 1

高齢者が快適で安心して暮らせる住まいづくり  
～住み慣れた住まいでいつまでも自分らしく～

#### 基本方針 2

高齢者の多様なニーズや状況に応じた住まいづくり  
～状況に応じて住まいを選択しながら自分らしく～

#### 基本方針 3

高齢者が身近な地域で長く暮らせる環境づくり  
～地域で支え合いながら自分らしく～